

会議記録

会議名	第6回杉並区多文化共生推進懇談会
日時	令和7年12月8日（月）午後6時30分～午後8時15分
場所	杉並区役所 西棟6階 第6会議室
出席者	〔委員〕 嶋田委員、谷原委員、シヴァ委員 田内委員、松尾委員 文化・スポーツ担当部長（阿出川） 〔事務局〕 文化・交流課
傍聴者	なし
配布資料	資料1 多文化共生基本方針に掲げる取組 資料2 行政情報の多言語化発信について
会議次第	〔議事〕 1 開会 2 議題 （1）多文化共生基本方針に掲げる取組報告 ① 山梨県バスツアー ステップ2：外国人の地域参画 （取組③⑩） ・荻窪秋まつり ・妙法寺こども食堂 ・すぎなみフェスタ ② 生活講習・防災意識啓発（取組⑦⑩） ③ 職員研修 やさしい日本語講座 伴走型（取組②） ④ はじめての日本語（大人向けゼロベース）教室（取組④） （2）行政情報の多言語化発信について（取組⑤⑥） （3）その他 3 事務連絡 4 閉会

会議の内容 および 主な発言等	要旨・発言内容
1 開会	<p>【司会・進行の選出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 要綱第4条2項に基づき、文化・交流課長を司会・進行とする →一同了承
2 議題	<p>【1 多文化共生基本方針に掲げる取組報告（資料1-1～4）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山梨県バスツアー ステップ2：外国人の地域参画（取組③⑩） 本事業は、基本方針で掲げる「地域コミュニティへの参加促進」／「国内外の文化を相互理解する取組」の一環として、区の交流自治体である山梨県忍野村、小学生の移動教室で関係がある山梨県山中湖村と三者で連携し、外国人区民と日本人区民との相互交流事業を実施し、多文化共生意識の醸成を図るとともに、外国人区民の地域参画の促進や地域の活性化及びキーパーソンの育成につなげていくことを目的とする。 <p><u>地域参画事業①荻窪秋まつり</u> 荻窪地域区民センター協議会主催の「荻窪秋まつり」にて、ウクライナ支援募金を実施し、募金者への御礼としてステップ1で名付けをしたダリアの切り花を配布した。</p> <p><u>地域参画事業②堀ノ内妙法寺子ども食堂</u> NPO 法人すぎなみ子どもサポート主催の「寺子屋 in 妙法寺」で開催された子ども食堂にて、子どもたちとの交流を行い、ステップ1で名付けをしたダリアの切り花をプレゼントした 《谷原委員から補足》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちは他者と馴染むのが早いと感じた。 ○子ども食堂は単発のイベントではなく、継続的にある居場所なので、このきっかけをどう持続可能にしていくか、地域にこういう場があって、困った時の拠り所や交流の場として気軽に参加できるようハードルを下げていくことや、いつでも歓迎しているというメッセージを発信をしていくことが大事だと思った。 <p><u>地域参画事業③すぎなみフェスタ</u> 桃井はらっぱ公園にて開催された杉並区最大級のイベント「すぎなみフェスタ」にて、ステップ1で訪問した山中湖村と協働し、物産品の販売を体験した。</p> <p>事業終了後に参加者へ行ったアンケートの結果とステップ2のまとめ</p> <p>〈外国人参加者の感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の文化を知ることができた ○前よりも地域の活動に興味を持った ○みんなと一緒に話したり、物を作ったり売ったりしてとても楽しかった <p>〈日本人参加者の感想〉</p>

- 海外の文化を知ることができた
- 他の参加者となつながりを持てた
- 多文化共生に興味を持った
- 様々なイベントに参加し世界が広がった
- 貴重な経験ができて嬉しい
- ボランティアに興味を持ち、外国人関連のボランティア活動に参加することがライフワークになった

→今まで地域と関わる機会が少なかった外国人が地域イベントに参加するきっかけとなったり、日本人参加者には多文化共生への興味の向上といった成果が得られた。一方で、ツアーでの学びや取組を地域の多文化共生理解に繋げていく方法の模索、今回のツアー参加者にいかに行政と地域をつなぐキーパーソンになってもらい、どのように事業を組み立てていくかなどが今後の課題であり、バスツアー参加者と事業の振り返りを行う会を実施し検討していく予定。

・新規転入者に対する啓発事業（取組⑦⑩）

本事業は、防災課や杉並清掃事務所と連携し、新規転入者（今回は新たに杉並区へ転入した明治大学の留学生）に対し、起震車体験やごみの分別の説明を通じて、母国との違いや日本の文化・生活習慣を周知することを目的に実施。

起震車体験

地震時の身の守り方をレクチャーした。地震のない国から来た人もおり、地震の威力に驚いた様子だった。

ごみの分別の説明

ごみの分別、特に昨今問題となっているリチウムイオン電池の捨て方について、誤った分別による危険性などを周知した。

・外国人生活講習会（取組⑦⑩）

本事業は、地域の震災救援所訓練に外国人区民を招き、震災が起きた際の避難情報や震災救援所の内容について周知すること、地域コミュニティへの参加促進を目的とする。

ペットの同行

保健所職員による避難時のペットの同行についての説明をうけた。

応急救護訓練

消防署職員の指導のもと、AEDの実践訓練や、三角巾を使用した止血・骨折手当、簡易担架の作り方など応急対応のレクチャーをうけた。

防災倉庫の見学

普段は見ることのできない防災倉庫の備品などを見学した。すべての避難所に同じ物資が用意されており、どこの避難所に行っても良いことなどの説明をうけた。簡易トイレの設置訓練も実施した。

生活講習・防災意識啓発事業のまとめ

→防災や生活マナーといった、日本で暮らしていく上で必要な知識を学べ

る場として一定の効果は上がったと考えるが、いかに多くの外国人区民に自分事と捉えてもらい、事業への参加率を上げるかが今後の検討課題である。

《委員からの質問等》

○震災救援所の参加者募集はどのように広報・周知を行ったのか

→当初は明治大学とのつながりから 10 名程度の纏まった参加者が来る予定だったが、直前に不参加となり、結果 2 名の参加となった。

(事務局)

○外国人の参加者を集めるのは難しいのか。ニーズとのミスマッチが起きていて勿体ないと感じた。また、参加者側の立場から見て、震災訓練などの催しはやさしい日本語表記のような配慮が一切なく、外国人が来る前提では運営されていないと感じる。ただ来てくださいと呼びかけるだけではなく、参加して理解できるように動いていかないと、ミスマッチが解消しないと思う。

→震災救援所の開催予定がなかなか決まらないため、今回は周知期間があまりなかった。また開催が日曜日の昼間ということも人が集まりにくい要因だと考える。今後どのように周知し参加者を集めるか検討していく。また、やさしい日本語の使用や通訳の用意など、配慮して運営することが必要と担当課に共有する。(事務局)

○通訳は区内大学や日本語学校の学生をもっと活用すると良いと思う。学生たちの学びにもなるし参加者も増えて一石二鳥だと思う。

○地域コミュニティへの参加を促すために行うのであれば、外国人だけを別に募集し連れて行くのではなく、訓練に参加している人が自分の属しているコミュニティの中で外国人に声掛けしてもらうのが良いのではないか。

○イベントに参加するメリットがあることをわかりやすくアピールすると良いと思う。

○震災救援所は地域の住民が参加するのが良いのではないか。転入手続きの際に案内などできると良いと思うが、そのための何か工夫はできないのか。

→転入の際の工夫として、過去に転入手続きの際に区民課にて案内チラシを配ってもらう取組を依頼したことがあるが、昨今区民課では配布物をなるべく増やさない方針をとっているため、なかなか難しい。しかし時代の変化を踏まえて、これを機にもう一度協力を掛け合ってみることを検討する。(事務局)

→今年度から特定技能の所属機関に連絡を取れる仕組みができたため、そういったツールを活用しながら必要な人に情報を届けられるよう取り組んでいきたい。(事務局)

○大学などの団体で転入手続きや説明を聞きに来てもらう取組がうまく運ぶならば、企業などを対象に同事業を展開することを考えていくのも

良いと思う。

○学生が対象ならば授業時間に開催してもらえれば参加しやすい。

→防災訓練は現状、地域の方に参加していただくために土日での開催になっているところだが、平日に開催することに新たなニーズがあることを防災課に共有し検討する。(事務局)

・職員研修 「やさしい日本語」 伴走型研修 (取組②⑥)

本事業は、相手に届く情報発信の表現を学ぶことを目的に区職員を対象に研修を行い、「やさしい日本語」の普及・啓発を目的とする。今回、伴奏型研修では、集合型研修は、「やさしい日本語」についての基礎的な知識を学んでもらうことを目的としたものであったが、本研修は、本年6月に実施した研修の受講生の中から参加者を募り、チラシや案内文などを「やさしい日本語」に書き換える実践的な力を身につけることを目的としたものである。本研修は、全2回の行程で実施した。

1回目研修

▶各研修生が持参した研修題材の情報分析

→研修題材を「やさしい日本語」に書き換えるに当たり、必要な情報とそうではない情報の仕分け作業を行った。

▶各題材の「やさしい日本語」試作版の作成及び講師による添削

→各自所属する職場を巻き込んで試作版の作成を継続することを宿題とし、試作版の作成後、講師による添削を受ける期間を設けた

2回目研修

▶講師による添削を受けた試作版を外国人ボランティアに見てもらい、外国人ならではの視点から意見やアドバイスを受け、ブラッシュアップしたものを完成版とした。

研修後に受講者へ行ったアンケートの結果と伴走型研修のまとめ

〈受講者の感想〉

○自分が思っていた以上にイラストや記号なども情報を伝える上で重要なものだということが分かった。「やさしい日本語」も情報を伝える手段として重要だが、それ以上に「伝えること」を意識する必要があると感じた。

○自分にとっては伝わりやすい表現になっていると思っても、外国人にとっては、文化の違いなどによって、逆に分かりにくくなってしまいうこともあるということがよく分かり、とても勉強になった。

→本研修は、初めての試みだったため、タイトなスケジュールで講師と受講生の双方に負担を強いてしまうなど運営面で反省すべき点があったため、今後は今回の反省点を踏まえ研修を企画していく。(事務局)

・はじめての日本語 (大人向けゼロベース) 教室 (取組④)

本事業は、日本語をほとんど話すことができない、これまでに勉強したことがない外国人を対象とし、生活のための基礎的な日本語の学習を支援す

ることを目的とする。

教室開設の経緯

これまで、区内在住外国人（成人）を対象とした日本語教室はボランティア主体で実施されてきたが、日本語を全く話すことができない外国人の学習対応には日本語教師等の専門的な知識が必要であるため、既存のボランティア主体の日本語教室では受入が困難な状況であった。

本教室は、こうした状況を踏まえ、区と杉並区交流協会の共催という形で行政が主体となって実施する運びとなった。

教室の概要

▶ 1クール全24回のカリキュラムを組み、毎週月曜日・水曜日の午後に交流協会の事務室にて開催。日本語で簡単な会話をできるようになることを目標とする。

▶ 嶋田委員から教材の提供など支援をいただいている。

▶ 第1期受講生は12名で、国籍・地域の内訳は、アイルランド、米国、キプロス、中国、台湾、ネパール及びニュージーランドなど。受講生の特徴としては、日本人の配偶者や、日本語ができる配偶者や子がいる方が多い。上達の速度に違いはあるが、皆楽しんで教室で学んでいる。

▶ 定期的に外部ゲストが参加するイベントを実施する。

先日は青年会議所からのゲストと、今まで学んだ日本語を使い会話を楽しんだ。次回は清掃事務所の職員を招き、ゴミの分別の仕方などについて学ぶイベントを実施する予定。その後は防災課の職員を招いたイベントを予定している。

→区は、本教室の取組を通じて、外国人区民の日本社会での孤立を防ぎ、安全・安心な生活の確保につなげていきたいと考えている。

《嶋田委員から補足》

○長い間検討を重ね、この事業が立ち上がった。

○全24回のうち、5回に1回特別カリキュラムを実施することになっている。

○ゲストと交流することで住民側への啓発にもなり、意識が変わっていくと思う。

○いろいろなことに柔軟に対応し、試行錯誤しながらやっている。

○地域住民として人と繋がれる、日本語を学ぶことを楽しいと思ってもらえる教室にしたいと考えている。

《委員からの質問等》

○はじめての日本語教室の参加者募集はどのように広報・周知を行ったのか。

→区公式ホームページや広報誌における広報のほか、多言語版のチラシを作成し、当該チラシを区民課前の広報ラックや交流協会に設置した。また、LTC（日本語教室ボランティア団体）にも周知を依頼した。
(事務局)

→交流協会の相談窓口やこども日本語教室の保護者交流会などで開講前から地道に声掛けをしていたことも効果があった。(嶋田委員)

○新規の生徒募集はあるのか。1クール24回の受講が終わった後は、受講生たちは継続して教室に通うのか。

→1クール終了後、次の受講生を新たに募集する。来年度は3クール開催予定。日本語の初歩を教える講座のため、本講座の受講終了後は他の教室に移るなど自立して学んでもらう。(嶋田委員)

【2 行政情報の多言語化発信について(資料2)】

・前回課題を提起した区からの郵便物を手に取ってもらうための工夫について、事務局案を作成したので資料2を参照のもとご意見を伺いたい。(事務局)

《新しい封筒案について 委員からの意見等》

○ローマ字表記と最低限英語(できれば5~6言語)表記を併記し、なみすけのような杉並区が送付してきたとわかるマークを掲載したり、フォントと色を工夫しインパクトを与えるデザインにするのが良いと思う。

○外国人の立場から言えば、言葉の問題も多少あるかもしれないが、多くの外国人は自己に利点が得られる場合は一生懸命情報を収集する。日本政府の外国人に対する規制や対応の変化もあるため、外国人側の情報収集意識が高まることにより、今後の行動に変化が見られる可能性があると思う。

○防災カタログは物がもらえるにも関わらず申し込み率が低かったのは何故だと思うか。(事務局)

→ぶ厚いカタログを見るのが面倒、たくさんの選択肢があるのも面倒くさいのかもしれない。

○国勢調査は、それ自体が難しく外国人個人だけでは回答できなかったかかもしれない。まず多言語の表記がない、分からないのでコールセンターに問い合わせをしても、コールセンター側の理解不足により要領を得ず、途中放棄に繋がったのかもしれない。

→今後実施の際は、日本語教室等で皆で一緒にやる機会を設けることも検討する。(事務局)

○何に関連する通知なのか、分かりやすいアイコンやマーク(子ども関連、お金関連)などを付けるのはどうか。

○「権利を行使する」または「義務を果たす」ことを知らせるための通知と、イベント案内のような手紙とでは、封筒に差別化が必要。

○「入管における在留手続に関係がある」など、「重要」である理由を封筒に明記するのはどうか。

→第三者に内容がわかるような文言の記載はできないので、記載方法を検討していく。(事務局)

→本日出た意見を反映させ、再度皆様にお示しする。(事務局)

	<p>【3 その他】</p> <p>現在決まっている今後の事業予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月18日（水）「やさしい日本語」研修（保健所職員向け） <ul style="list-style-type: none"> →保健所職員が、日々の業務において、外国人の妊婦や母親と接する機会が多くなったことに伴い、言葉の問題などから対応に苦慮する場面が多くなってきたことを受けて、当該外国人と円滑にコミュニケーションをとれるよう保健師向けの「やさしい日本語」研修を実施してほしいと保健所から依頼があったもの。 ・ 1月6日（火）「やさしい日本語」集合型研修（区職員向け）
3 事務連絡	次回開催は令和8年3月～4月頃を予定
4 閉会	